

わがまちの 「ちよつといい話」

NO. 33

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○ 地域の伝統文化

八月二十二日、陽が落ちる頃、円城寺秋葉神社の提灯にあまりがともる。太鼓のリズムに合せ、浴衣や甚平姿の子ども達が踊り始め、

やがて、この地域に引き継がれてきた雨乞い踊り「芭蕉踊」が披露される。

この踊りは五十年ほど途絶えていたが、昭和四十八年に再現され、

このあたりの芭蕉踊の元祖として平成元年に県重要無形民俗文化財に指定された。近年、保存会により継承され、子ども達が踊り手や笛方を務めている。

○ 魅了する 芭蕉踊

拍子木の音を合図に、会場は静かな雰囲気になる。その中、提灯を先頭に

町内会長さん、唄い方、笛方、①と染め抜いた鉢巻をした踊り方合わせて五十名ほどが静々と進む。その大半が小学

生。唄と笛にあわせ、鉦を打つ者と芭蕉の葉に似た旗指物を背負い胸に着けた太鼓を打つ者が一組になって「そうりや」の掛け声をかけて踊る。行灯や提灯のほのかなあかりの中で、笛の音、唄の声、鉦・太鼓の音と踊りが、祭りの情緒をあたりにただよわせる。

○ 引き継がれる

毎年八月になると、保存会の方々が踊

引き継がれる伝統文化 「芭蕉踊」



りに使う道具や衣装を準備される。そして、円城寺地

区の小学校四年生以上の子ども達に芭蕉踊の笛、踊りの手ほどきをされる。慣れないことで、最初はとまどう子ども

達だが、指導により笛方、踊り方として、その一つひとつを身につけていく。うま

くできない子も、指導される方々の温かさや励ましに押され、乗り越えていく。その中で、地域の方々の温もりを感じ、世代を超えた人間的なつながりも生まれてくる。

○ わが「ふるさと」!

こうした地域での体験は、永く子ども達の記憶に残る。同時に、地域文化を大切に、誇る心も育まれていく。

毎年、芭蕉踊の時期になると、わが「ふるさと」への想いも少しずつ深まっていくにちがいない。



緊張した表情で会場に入場する子ども達